

第6学年国語科学習指導案

日時 平成16年7月7日(水)5校時
児童 男子5名 女子15名 計20名
指導者 松田 薫

- 1 単元名 作品と出会う、作者と出会う (光村図書6年上)
- 2 教材名 「やまなし」「イーハトーブの夢」「作家と作品に出会おう」
「『作家と作品』展示コーナーを作ろう」

3 単元について

(1) 単元について

本単元は、宮沢賢治の物語「やまなし」と宮沢賢治の伝記「イーハトーブの夢」の二つが読むための教材として位置づけられている。これまでの物語文を扱った学習では、登場人物の言動や心情の流れを追い主題に迫るものを多く経験してきた。しかし、「やまなし」は、五月と十二月の色彩豊かな情景描写が対比的に描かれている構成であったり、擬音語・擬態語・色彩語・比喩表現など一つ一つが持つ響きやリズムがとても豊かであったりするなど、児童一人一人が感性を磨きながら豊かに読み進めることに適した教材である。「イーハトーブの夢」は宮沢賢治の世界に深く関わる筆者が小学生に向けて書き下ろした評伝である。この文章を読むことで児童は、一人の人間、賢治の生き方に触れることができるであろう。広い知識と理想を持つ賢治を知り、賢治が生んだ他の作品への興味をかき立てる教材である。「作品と出会う、作者と出会う」という目的をもって学習を始めた児童は、二つの教材を読んだ後、「作家と作品に出会おう」でさらに宮沢賢治を深く知ろうとする活動や別の作家との出会いを求めた活動を行い、その成果を外部に向けて発表する。

本単元は、個々の読みを生かして他の作家や作品へ読み広げられるよう構成されており、文学作品にふれるおもしろさやすばらしさを児童に味わわせ、読書の楽しさにふれることをねらいとしている。

(2) 児童について

この時期の児童は、さまざまな読書体験を重ねてきており、作品の見方や味わい方にも個性が現れてくる。また、多様な作品の読み方が可能になってくる。本学級の子供たちの日頃の読書の様子や国語の学習の様子を見ると、自分の興味をもった読み物を選び、集中して読んでいる。しかし、読み物が自分の好みの物だけで幅がせまかったり、感想やノートを読んでも、筆者の言いたいことを言葉に注意して読みとることができなかったり、自分で想像したり考えたりしながら読むことが苦手だったりする傾向がある。また、自分の考えや感想を交流しあう活動では、意見を話し合う活動には消極的である。これまで学級では、「森へ」で文章を味わうときは、筆者の工夫した表現とその効果に注目して読んでいくことを学習した。また、「火星に生命をさぐる」では、筆者の考え方や読者への呼びかけに対して、自分の考えをもちながら読むことを学習してきた。さらに、「短歌や俳句を味わおう」では、自分の気に入った俳句や短歌を選んで紹介する活動を行った。子供たちが読むことに対して意欲をもち、自分の考えを広げたり深めたりしながら読み進めることができるような力を育てたい、また、幅広く読書に親しんで欲しいと考え進めてきた。

(3) 指導にあたって

本単元は大きく分けて三つの学習から構成されている。一つ目は表現の効果を感じ取りながら作品を読み味わう学習、二つ目は伝記を読み、作家の生き方や考え方について考える学習、三つ目は作家や作品を紹介する学習である。

「やまなし」では、優れた表現を視写したり、情景が伝わるように音読したりする活動を通し、表現の効果を確認、読む楽しさを味わわせたい。「イーハトーブの夢」では、賢治の生き方や考え方に対して、自分なりの考えをもちながら読むことができるようにしたい。「作家と作品に出会おう」では、より多くの作家や作品へ誘うことができるように教室に作家・作品コーナーを設定するなど環境をしっかりと整え、自分の考えを広げたり、想像を深めたりしながら、読書をする楽しさに触れることができるようにしていきたい。「作家作品・マイブーム展」では、作家や作品について自分なりの考えをもって発表の原稿を作ったり、自分の意図が伝わるように的確に話すことができるようにしていきたい。そして、お互いに紹介・感想交流する活動を通して、作者の信念や意志やそこから生み出された作品が長く人々の共感を呼んでいることを感じられるようにしたい。これらの活動を通して、今後の読書への意欲を喚起できるようにするとともに、読書のもつ意義の深さに気づかせていきたい。

4 単元の目標

宮沢賢治の作品の情景を想像しながら読むとともに、その伝記から賢治の生き方や考え方を知る。さまざまな作家とその作品に関心を持ち、読書への意欲をもつ。
「作家と作品」展示コーナーの展示物や資料を作成し、作家と作品の魅力を伝えあう。

5 単元の指導計画（全16時間）

学習活動		関心・意欲・態度	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
第一次	全文を読み、自分の読みの課題を明らかにする。					
	課題をもとに「五月」の情景を読む。					
	課題をもとに「十二月」の情景を読む。					
第二次	「五月」と「十二月」を対比しながら読む。					
	「イーハトーブの夢」を読み、賢治の生き方・考え方に触れる。					
	（及び課外）賢治の他の作品や伝記を読む。					
第三次	賢治の生き方や考え方が作品にどのように反映されているか感想交流する。					
	（及び課外）賢治や他の作家の作品や伝記などの資料を探して進んで読み味わう。					
	友達と感想交流しながら、興味をもった作家の作品を読み味わう。					
第四次	紹介したい作家・作品について、紹介したい点や表現方法について考える。					
	作家の思いや考え方や作品のかかわりを考え、自分の考えをまとめる。本時					
	（及び課外）「マイブーム展」の準備をする。					
	相手に伝わるように「作家・作品マイブーム展」を行う。					
	友達の発表を聞いて、興味をもった作品を読む。学習のまとめをする。					

は主目標

6 本時の指導

(1) 目標

作家や作品を分かりやすく解説する紹介原稿を書く。

(2) 本時の評価

・評価規準

紹介したい作家や作品について、自分の考えをまとめようとしているか。

具体の評価規準	Aの状況の具体的姿	Cの状況への手だて
紹介したい作家や作品について、自分の考えをもち、紹介原稿を書いている。	紹介したい作家や作品について、自分の考えを深め、自分の考え方や生き方を振り返って紹介原稿を書いている。 ・自分の考え方がどのように広がったか、変わったか以前の自分と比べて書いている。	紹介したい作家や作品について、みんなに紹介したい所や好きな所に付箋を貼ったり、紹介原稿に書かせたりする。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の働きかけと ・予想される児童の反応	支援上の留意点 評価
導入 5分	1 学習課題を把握する。	前の時間に「作家・作品マイブーム展」の計画を立てました。紹介する時のポイントとしてどんなことを入れようと確認しましたか。 ・あらすじの紹介 ・作品のよさ（表現・情景） ・作家の思いや考え方（主題） ・自分の考え	紹介したい作家や作品について、自分の考えをまとめていく時間であることをおさえる。 作品によって、何を訴えようとしているか主題が分かりづらいものもあるので、無理に書かなくても良いことを確認する。
紹介したい作家や作品について自分の考えをまとめよう。			
展開 35分	2 自分の考えをまとめる。 ・紹介原稿を書く。 3 グループ毎に交流をする。 (同じ作者) ・紹介原稿を読みあう。	本を読んで、自分が考えたことを紹介原稿にまとめましょう。読む人に自分の書いたことが伝わるようにまとめていきましょう。 紹介原稿をお互いに読みあって、作品のよさや作家の思いや考え方、書いた人が考えたことについて交流してみましょう。もし、書いていることが分からなかったり、書き手の考えや思い・伝えようとしていることがはっきり分からない時はアドバイスしてあげてください。	「私と 」という紹介原稿を書くことで、その作家や作品によって自分の考え方がどのように広がったか、変わったか意識させて書くようにさせる。 友達に紹介することで相手意識をもって書くように指示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">紹介したい作家や作品について、自分の考えをまとめようとしているか。(紹介原稿)</div> それぞれの紹介原稿の交流をすることにより、作品のよさや作品に込められた作家の思いや考えを感じられるようにする。また、読み手に対して、自分の考えが伝わっている書き方であったか、お互いにチェックし合うようにさせる。 話し合いが進んでいるグループには、一人一人の考えをもとに、作品から感じられる作家の考え方まで踏み込んで話し合うようにうながす。
まとめ 5分	4 本時の学習を振り返る。 ・感想を発表する。 5 次時の学習の予定を確認する。	今日の学習を振り返っての感想や交流を通して改めて考えたことなどを発表してください。	感想を発表しあい、互いの学習の成果を認め合う。また、他のグループの交流内容を聞くことで他の作家に興味を持たせるようにする。 次時からは「マイブーム展」の準備に取り組むことを確認する。